

「飛鳥時代」 期末テスト対策ポイントまとめ

中学の飛鳥時代、コレがプラスされる！

- 蘇我氏と渡来人の関係
- 飛鳥文化について

飛鳥時代、基本知識をおさらいしよう

蘇我氏ってなんだっけ？

蘇我氏は、河内地方（かわちちほう）で栄さかえた豪族（ごうぞく）一族

飛鳥時代の豪族たちは、血縁関係を基本に「氏（うじ）」という集団を作っていたね。
「蘇我氏」というのは、現在の大阪の河内地方で栄さかえていた豪族だったね。

大和朝廷ってなんだっけ？

大和朝廷は、有力な豪族が連合して作った政府のこと

その中でもトップになる人を決めただけど、それが大王（おおきみ）だったね。
大王を中心に、有力な豪族たちはそれぞれ決まった役職について朝廷の政治をおこなっていたんだ。

その役職ごとに「姓（かばね）」という「役職に対しての名前」が豪族にあたえられたね。

このしくみを「氏姓制度（しせいせいど）」と呼ぶよ。この言葉は詳しく高校歴史で学習するよ。



蘇我氏ってなんで力を持つようになったんだっけ？

蘇我氏は朝廷の中でもかなり偉い「大臣（おおおみ）」という役職の姓を受けていたよ。なぜなら、蘇我氏はもともと大王の血筋から生まれた一族だったので、朝廷でも力を持っていたという説があるよ。

さらに蘇我氏は「自分の娘を大王の妃にする」方法でどんどんと力をつけていったんだ。

聖徳太子ってどんなことをしたんだっけ？

聖徳太子は、用明天皇の皇子で、本当は厩戸皇子（うまやどのおうじ）という名前だったね。

女性である推古天皇の摂政をして政治をおこなうサポートをしていたよ。

聖徳太子が目指したのは「天皇を中心とした国づくり」。

そのためにも、豪族が力を持ちすぎないようにしようと色々がんばったんだ。

冠位十二階や十七条の憲法は、そのために作られた制度だったね。

聖徳太子は儒教の教えを参考にして十七条の憲法を作ったと言われているよ。

飛鳥時代の復習ができれば、いよいよ「中学でプラスされる学習」について解説するよ。

プラスされる学習①

「蘇我氏と渡来人の関係」

朝廷でどんどん力を持っていった蘇我氏だけれど、その「力を持った」キッカケのひとつが、実は「渡来人」なんだ。

渡来人は、すぐれた技術や、政治の知識など持っていたよね。

蘇我氏は、渡来人が伝えた仏教を進んで受け入れることで、渡来人と仲良くしたんだ。

そうすることで、蘇我氏は渡来人から進んだ技術や知識をどんどん取り入れて「朝廷でも力を持つ」までパワーアップしたというワケ。

すぐれた技術を持っているということは、より強い武器を作ったりすることもできるからね。



プラスされる学習② 「飛鳥文化について」

仏教は、蘇我氏や聖徳太子に受け入れられたよね。

聖徳太子が作った「十七条の憲法」も、仏教の教えがもとになっていたりしたよね。

政治の中心になった蘇我氏や聖徳太子が仏教を取り入れたことで、ほかの豪族や皇族の間でも仏教が受け入れられるようになったんだ。

こうして、日本で最初の「仏教文化」が広まったよ。

朝廷があった「飛鳥（現在の奈良）」でおこった文化だから、「飛鳥文化」と呼ぶよ。

聖徳太子ゆかりの法隆寺には、飛鳥文化の特徴がたくさんあるよ！

法隆寺のこんなところが飛鳥文化！

法隆寺の中門

法隆寺の中門に使われている柱は、真っ直ぐではなくて、柱の真ん中より下あたりが一番「太い」デザインになっているんだ。

このデザインが、ギリシャのパルテノン神殿の影響を受けている！という説があるよ。



パルテノン神殿



法隆寺の中門

パルテノン神殿の柱は、古代のギリシャなどで作られている「エンタンシスの柱」というデザイン。

このデザインは、柱を真っ直ぐにしないで、下から上に向かってだんだん細くなるようになっているんだ。



こうすることで、下から見上げた時に「柱がしっかりとしている」ように見えるメリットがあるよ。錯覚の効果だね。

法隆寺の中門に使われている柱も同じデザインなので、「法隆寺の中門の柱は、古代ギリシャの影響を受けている」と考える説があるんだよ。※この説には、反対する声もあるよ。

もしこの「エンタンスの柱」のデザインがギリシャから日本まで伝わったのなら、その途中の地域でも同じようなデザインの柱があっても良いのに、何も無いので「法隆寺の中門の柱のデザインは、日本独自に生み出されたもの」という意見も多いんだ。

法隆寺の金堂釈迦三尊像（こんどうしゃかさんそんぞう）

中国の竜門石窟（りゅうもんせっくつ）の石仏の影響を受けている！



竜門石窟の石仏



金堂釈迦三尊像



法隆寺の金堂壁画

インドのアジャンタ壁画の影響を受けている！



左がインドのアジャンタ壁画に描かれているもので、右が法隆寺金堂壁画（こんどうへきが）に描かれている物。とても似ているね。

広隆寺（こうりゅうじ）の弥勒菩薩（みろくぼさつ）も飛鳥文化！

広隆寺にある弥勒菩薩像も、朝鮮の弥勒菩薩像の影響を受けているよ。



朝鮮の弥勒菩薩像



広隆寺の弥勒菩薩像

ギリシャに中国、インドに朝鮮・・・世界各地の影響を受けているんだね。



飛鳥文化のまとめ

時期	推古天皇の時代 (6世紀後半～7世紀なかごろ)
きっかけ	仏教賛成派の聖徳太子と蘇我氏から、皇室や有力な豪族へ広まっていった
特徴	・日本で初めておこった仏教文化 ・中国や朝鮮、ギリシャ、インドなど世界レベルの文化の影響を受けている。 ・渡来人が活躍している
どんな建物があるの？	法隆寺、四天王寺、飛鳥寺
どんな彫刻があるの？	法隆寺の金堂釈迦三尊像、法隆寺の百済観音像、夢殿救世観音像、広隆寺の弥勒菩薩像、中宮寺の弥勒菩薩像、薬師如来像
どんな絵画があるの？	法隆寺の玉虫厨子須弥座絵
どんな工芸品があるの？	中宮寺の天寿国繡帳、法隆寺の玉虫厨子
どんな文化があるの？	暦、紙、墨、絵の具

昆虫の羽を飾りに使った仏具「玉虫厨子（たまむしのずし）」はテストにもよく出題されるので、とくに覚えておこう。

中学歴史ではココをプラスで押さえればOK！

飛鳥時代まとめ

※赤いキーワードは絶対に覚えよう！

- 蘇我氏は、仏教を受け入れて、**渡来人**との結びつきを強くすることで**朝廷での力**を伸ばしていった。
- 仏教を受け入れていた**聖徳太子と蘇我氏**から、皇室や有力な豪族に**仏教文化が広まった**。
- 推古天皇の時代に、**日本で初めての仏教文化**がおこった。
- 朝廷のある飛鳥でおこった文化なので、**飛鳥文化**と呼ぶ。
- **法隆寺**などの建築物や、仏像、工芸品などは、中国や朝鮮、ギリシャやインドなどの**世界的な文化**の影響を受けている。
- 十七条の憲法は、中国の儒教を参考に行っている。

